

2016年7月

推進工法用設計積算要領  
「小口径管推進工法 高耐荷力管推進工法編 2016年改訂版」  
掲載内容の訂正とお詫び

公益社団法人 日本推進技術協会

謹啓 時下ますます御清勝のこととお慶び申し上げます。

平素は当協会の刊行物をご利用いただき、厚く御礼申し上げます。

さて、誠に遺憾ながら、2016年4月発刊いたしました推進工法用設計積算要領「小口径管推進工法 高耐荷力管推進工法編 2016年改訂版」の記載内容に一部誤りがありました。

今回、下記の通り正誤表を作成いたしましたので、お手数ですが訂正くださいますようお願い申し上げます。

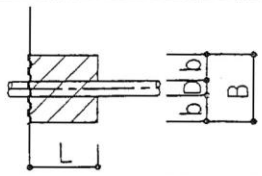
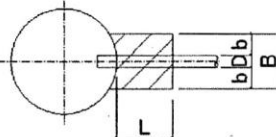
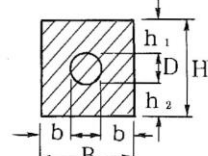
ご利用されます方に、大変ご迷惑をお掛けしましたことを深くお詫び申し上げます。

謹白

2016年改訂版 正誤表

頁	行目・図表	誤	正
70	表 1-34		※1
101			※2 5 推進水替工 追加
176	22	$V=S \times L \times Q$	$V=S \times L \times Q \times \gamma$ $\gamma$ : 注入損失係数 (1.5~1.8)
192	下から 1	3. 車上プラントを使用する場合の推進工の日進量は、補正日進量を適用する。	削除
211	6-7  12	$d = \text{掘進延長} / 100\text{m} \times \text{推進日数} \times 1/2 + \text{段取り替え日数}$ (複数スパンの場合は、推進延長と推進日数は合計値)  $g = \Sigma (\text{各中間プリズムの推進日数} + \text{段取替え日数}) \times \alpha$	$d = \text{掘進延長} / 100\text{m} \times (\text{掘進日数} \times 1/2 + \text{段取り替え日数}) \times \alpha$ (複数スパンの場合は、掘進延長と掘進日数は合計値)  $g = \Sigma (\text{各中間プリズムの掘進日数} + \text{段取替え日数}) \times \alpha$
234	下から 5	3. 「推進設備移設工」で地上設備の移設をしない場合および車上プラントの場合の日数は、「方向転換」に準ずる。	3. 「推進設備移設工」で地上設備の移設をしない場合および車上プラントの場合の日数は、「方向転換」に準ずる。
274	下から 5	同上	同上

表 1-34 最小改良範囲 ※1

	発進部	到達部	図および記号
改良平面	D : 推進工法用管外径 B : $D + 2b$ b : 1.0 m を最小とする L : ※ <sub>1</sub>	L : ※ <sub>2</sub>	ライナープレート・鋼矢板立坑 
	上記記載と同じ	上記記載と同じ	ケーシング立坑 
改良断面	D : 推進工法用管外径 B : $D + 2b$ H : $D + h_1 + h_2$ b : 1.0m を最小とする h <sub>1</sub> : 1.5m を最小とする h <sub>2</sub> : 1.0m を最小とする	発進部と同様とする	

※<sub>1</sub> L : 発進部・・・先導体機長+推進工法管 1 本

(全断面解放された切羽の自立確保と発進立坑の保護、先導体の調整・姿勢制御などのための最小範囲である。)

※<sub>2</sub> L : 到達部・・・先導体機長

(到達に際し、先導体周囲の地山は乱れた状態になっているので、先導体の安定と止水目的のために地山を補強する。)

※。ケーシング施工時、ケーシング周りは圧入時に周辺が緩んでいるため、完了時に周辺へ地盤改良等別途検討が必要である。

## 5 推進水替工 ※2

### B-28 推進水替工

(一式)

種 目	形状寸法	単位	数 量	単 価 (円)	金 額 (円)	摘 要
推 進 用 水 替		式	1			C-107
計						

### C-107 推進用水替

(一式)

種 目	形状寸法	単位	数 量	単 価 (円)	金 額 (円)	摘 要
ポ ン プ 運 転 工		日				D-107-1
排 出 水 処 理 費		式	1			必要に応じて計上
計						

### D-107-1 ポンプ運転工

(1日当り)

種 目	形状寸法	単位	数 量	単 価 (円)	金 額 (円)	摘 要
特 殊 作 業 員		人				備考1
軽 油		ℓ				備考2
潜 水 ポ ン プ 料	口径○mm ○○kW	日				賃料×台(賃料日数) 作業時排水 1.2日 常時排水 1.1日
発 動 発 電 機 料	○○kVA	日				賃料×台(賃料日数) 作業時排水 1.2日 常時排水 1.1日
諸 雑 費		式				備考3
計						

備考 1. ポンプの運転歩掛は排水現場1箇所当り次表を標準とする。

表 3-12 ポンプの運転歩掛

(人/1箇所・日)

名 称	排 水 方 法	
	作 業 時 排 水	常 時 排 水
特 殊 作 業 員	0.14	0.17

(注) 1. 歩掛は、運転日当り運転時間が作業時排水8h、常時排水24hを標準としたものである。

2. 労務単価は、時間外手当等を考慮しない。

3. 歩掛は、排水方法にかかわらず、排水現場1箇所当りポンプ台数が1~5台の運転労務歩掛を標準としたものである。上表により難しい場合は別途積算する。

4. 1工事に数分割の縮切がある場合は、1縮切現場を1箇所とする。

備考 2. 発動発電機の燃料消費量は、下表による。

表 3-13 発動発電機の燃料消費

(ℓ)

規格（排出ガス対策型・ ディーゼルエンジン駆動）	排 水 方 法	
	作 業 時 排 水	常 時 排 水
20kVA	26	77
25kVA	31	94
60kVA	78	233
100kVA	128	384

(注) 本表は、運転日当り運転時間が作業時排水 8h、常時排水 24h を標準としたものである。

備考 3. 諸雑費

諸雑費は、ポンプの配管材料の損料等の費用であり、労務費、機械賃料および機械経費の合計に次表の諸雑費率を乗じた金額を上限として計上する。

表 3-14 諸 雑 費 率

(%)

排 水 方 法	作 業 時 排 水	常 時 排 水
諸 雑 費 率	2	1